

思わず自分の考えを伝えたくなる 課題を通じて、考えて話す力を育む

小学校の外国語活動



私が訪問しました

愛知県・
私立名鉄学園とじく杜若高校
安藤亮輔

あんどう・りょうすけ



◎教職歴7年。同校に赴任して7年目。英語科主任。3年生担任。自分の考えを、論理的な構成の英文で表現できることを目指し、語彙力を増やすとともに、エッセーライティングを重視した授業を展開する。さらに、ペアトークやプレゼンテーションを通じてオーラルコミュニケーションも重視するなど、英語4技能をバランスよく高める指導を実践している。

愛知県・私立名鉄学園杜若高校

全日制／普通科／共学／1学年約290人／2019年度進路実績（現浪計）：国公立大は、東北大、愛知教育大、名古屋工業大などに29人が合格。私立大は、東京理科大、南山大、立命館大などに延べ272人が合格。短大、専門学校進学74人。就職73人。

私が案内しました

岐阜県・
瑞浪市立瑞浪小学校
勝部佳純

かつべ・かすみ



◎教職歴20年。同校に赴任して2年目。外国語活動に力を入れ、前任校在籍時に2017年度文部科学大臣優秀教職員賞を受賞。文部科学省「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」執筆・編集協力。現任校に赴任後は、英語主任として近隣の小・中学校と協力し、来年度からの小学校英語の教科化に向けたカリキュラムを準備中。

岐阜県・瑞浪市立瑞浪小学校

教育目標に「じょうぶでよく働く子・仲よく助け合う子・進んでよく学ぶ子」を掲げる。2019年度の学校経営の重点項目として、確かな学力の定着と自己有用感の育成に取り組んでいる。児童数735人。

好きな教科を伝え合う5年生の外国語活動。子どもたちは、勝部先生とALTとのやり取りや友だちが使った表現を参考にしながら、自分の考えを英語で表現しようとする姿が見られた。

この日は、相手を替えて計7回のペア活動が行われた。活動の合間に勝部先生が、「〇〇さんはこんな言い方をしていたよ」などと、全体に共有する時間を設けることで、子どもたちは次第に表現の幅を広げ、好きな教科やその教科が好きな理由を伝え合えるようになっていった。



安藤 本校は希望進路の異なる3つのコースがあり、それぞれのコースで英語のコミュニケーション能力の育成を図っています。大学進学を目指すコースでは、発表や討論を通して英語運用能力や考える力が育まれています。意欲的に表現するという面には課題がありますが、希望進路が多様なコースでは、基本的な英語表現の定着を重視していますが、生徒の学習姿勢は受け身で、例文を読み合うだけの活動にとどまりがちです。今日の授業では、英語力に個人差はありましたが、どの子どもも楽しそうに英語を使う姿が印象的でした。相手の発言を理解し、受け入れようとする姿勢ができていますが、コミュニケーションの土台にあると感じました。

勝部 「英語の授業はコミュニケーションの授業です」と、子どもたちには繰り返し伝えていきます。相手を安心させたり認めたりする英語表現とともに、自分の考えを伝えたいという気持ちや相手との関係性を育むことを重視しています。

安藤 今日の授業は、好きな教科とその教科が好きな理由を質問し合い、クラスで2番目に人気のある教科を当てるというものでした。答えを当てたいとい

子どもたちや教師が英語でのコミュニケーションを楽しみ、自然と授業の目標に到達する流れが素晴らしいです。



子どもたちは、英語の自然なやり取りを見て、聞いて、使ってみることで、考えて話す力を身につけていきます。



う気持ちにさせることが、相手とコミュニケーションを取りたいくなる原動力の1つになっていると思います。本校では、課題設定は大学入試の過去問題を参照しつつ、生徒の英語力に合わせて決めることが多いです。そのため、受験を意識し過ぎて、生徒の興味を喚起する視点が弱いかもしれません。

勝部 子どもが心から興味を持ち、協働して問題解決に向かいたくなる課題を設定するようにしています。本時では、1番人気のある教科は予想しやすいた



め、あえて2番目としましたが、英語に自信のない子どもも、おのずと表現したくなる状況をつくるねらいもあります。

安藤 今日の授業では、「この表現を使って」といった指導がなかったのに、私が見る限り、全員が本時の目標とした表現を身につけていたのも驚きでした。

勝部 例文をなぞるのではなく、前後の文脈から表現の意味を推測させたり、子どもがその表現を使いたくなるような課題で興味を持たせたりすることで、本時の目標とした表現を自然に身につけさせるようにしています。また、主体的に英語表現を獲得させ、伝え合う楽しさを味わわせることで、コミュニケーション力を高めたいと考えています。

今日の学びを
自校の指導につなぐ

生徒が夢中で楽しむ
コミュニケーションの
場面を生み出していきたい



本校の生徒は、探究学習などでは活発に意見交換をしますが、英語での言語活動になると沈黙してしまいます。その一因は、知識・技能面にあると考えていましたが、高校生よりも知識量が少ない小学生が主体的にコミュニケーションを取る姿を見て、授業に臨む生徒の姿勢に原因があると捉え直しました。協働して問題解決に向かいたくなったり、自分の考えを伝えなくなったりする課題を設定し、心から楽しめるコミュニケーションの場面を生み出せる授業がつかれるよう、今日の学びを生かしていきます。英語科主任として、本校のすべての英語科教師に見せたいと感じた授業でした。



授業では、勝部先生自身が、子どもやALTとの会話を楽しむことを大切にしている。その姿を見た子どもたちが積極的にコミュニケーションを取り、自分の考えや思いを伝え合うことで、学級全体にその日の学びが浸透していく。